

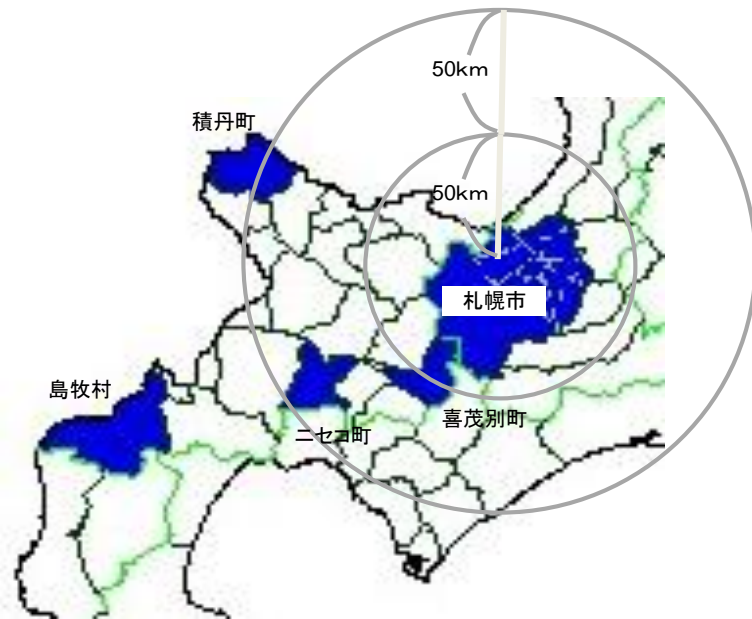
平成27年度健康寿命延伸産業創出推進事業

# 複数自治体・民間連携型健康サービス事業

社会福祉法人溪仁会  
ヘルスケア事業推進室

## 事業内容

1. 過疎地域の広域連携健康支援拠点を核とした公的保険外健康増進モデル実証  
(喜茂別町を中心に、ニセコ町、積丹町、島牧村の4町村の住民対象に実施)
2. 都市部元気高齢者向け生きがい創出モデル(ヘルスコンシェルジュサービス等)実証  
(札幌市の元気高齢者をモニター会員として募集し実施)



	高齢化率	人口伸び率	高齢者数伸び率	一人当たり医療費	一人当たり入院費	受診平均日数
北海道	26.8%	-1.2%	11.0%	1,081	568	2.96
喜茂別町	<u>38.3%</u>	<u>-6.3%</u>	<u>5.0%</u>	<u>1,344</u>	<u>829</u>	<u>4.04</u>
ニセコ町	26.1%	2.2%	6.0%	1,057	<u>637</u>	<u>3.57</u>
積丹町	<u>43.5%</u>	<u>-12.5%</u>	<u>-6.1%</u>	<u>1,109</u>	<u>624</u>	<u>2.82</u>
島牧村	<u>41.5%</u>	<u>-14.1%</u>	<u>-5.8%</u>	986	<u>586</u>	2.93

※医療費・入院費の単位は千円

## 事業の目的(地域の課題と解決策)

### 1.過疎地域の広域連携健康支援拠点を核とした公的保険外健康増進モデル実証 (喜茂別町を中心に、ニセコ町、積丹町、島牧村の4町村の住民対象に実施)

#### 【課題】

4町村はいずれも小規模自治体であり、高齢化、人口減少が進み、医療費、介護費が増加  
特に喜茂別町、積丹町、島牧村は「高医療費市町村」に指定されており、医療費適正化は喫緊の課題

医療費適正化を図るためには、地域住民の健康づくり意識を高めることが必要  
しかしながら、各自治体では、一般高齢者に対する疾病予防・健康増進の取り組みが全くできていない状況

小規模自治体は市場規模が小さいことから、民間事業者の参入障壁も大  
**公的保険外サービスの担い手が絶対的に不足**



#### 【解決策】

限られた市場規模、健康づくりの担い手不足を克服するため、  
**複数自治体の連携による市場規模の確保、民間事業者による広域連携健康支援拠点を核とした効率的な健康支援活動**

## 実施事業の目的(地域の課題と解決策)

### 1.過疎地域の広域連携健康支援拠点を核とした公的保険外健康増進モデル実証 (喜茂別町を中心に、ニセコ町、積丹町、島牧村の4町村の住民対象に実施)

#### 【事業内容】

喜茂別町に広域連携健康支援拠点を設置し、ITを活用した健康支援プログラムを開発し、4町村住民の健康増進効果、医療費抑制効果の実証を行う。

#### 【実施方法】

- ・喜茂別町に広域連携健康支援拠点を設置し、健康相談員(看護師)を配置
- ・喜茂別町が事務局となり、4町村健康増進ネットワーク(4町村協議会)を設置
- ・住民の健康データ収集・管理(4町村125人が登録参加)
- ・健康相談員による現地訪問指導
- ・医師・健康相談員によるTV電話を活用した遠隔健康相談
- ・健康教育講演会の開催
- ・健康づくりプログラムの開発(喜茂別町)
- ・住民の健康増進効果・事業効果の測定
- ・公的保険外健康増進モデル事業のコスト・ベネフィット調査

## 実施事業の目的(地域の課題と解決策)

### 2.都市部元気高齢者向け生きがい創出モデル実証 (札幌市の元気高齢者をモニター会員として募集し実施)

#### 【課題】

都市部では、60歳代に至るまで経済活動の第一線で働くことで社会との結びつきを有しているが、退職・引退とともに社会での位置づけ・役割が希薄となる・現役時代は受けていた健診も、退職後は受診機会がなくなってしまう。

人生の最後を迎えるまでの20年以上の長い時間を、いかに社会との接点や役割を見だし、健康寿命を維持するかは個人にとって大きな問題であり、社会においても高齢者の活躍の機会の創出は重要な視点である



#### 【解決策】

都市部元気高齢者を組織化することにより、退職後の継続した健診受診機会の確保、ゆるやかな社会参加・生きがい創出により健康寿命の延伸を目指す

#### 【波及効果】

都市部元気高齢者の活動フィールドを過疎地域に拡大することにより、交流人口の拡大、移住促進により地方創生

## 実施事業の目的(地域の課題と解決策)

### 2.都市部元気高齢者向け生きがい創出モデル実証 (札幌市の元気高齢者をモニター会員として募集し実施)

#### 【事業内容】

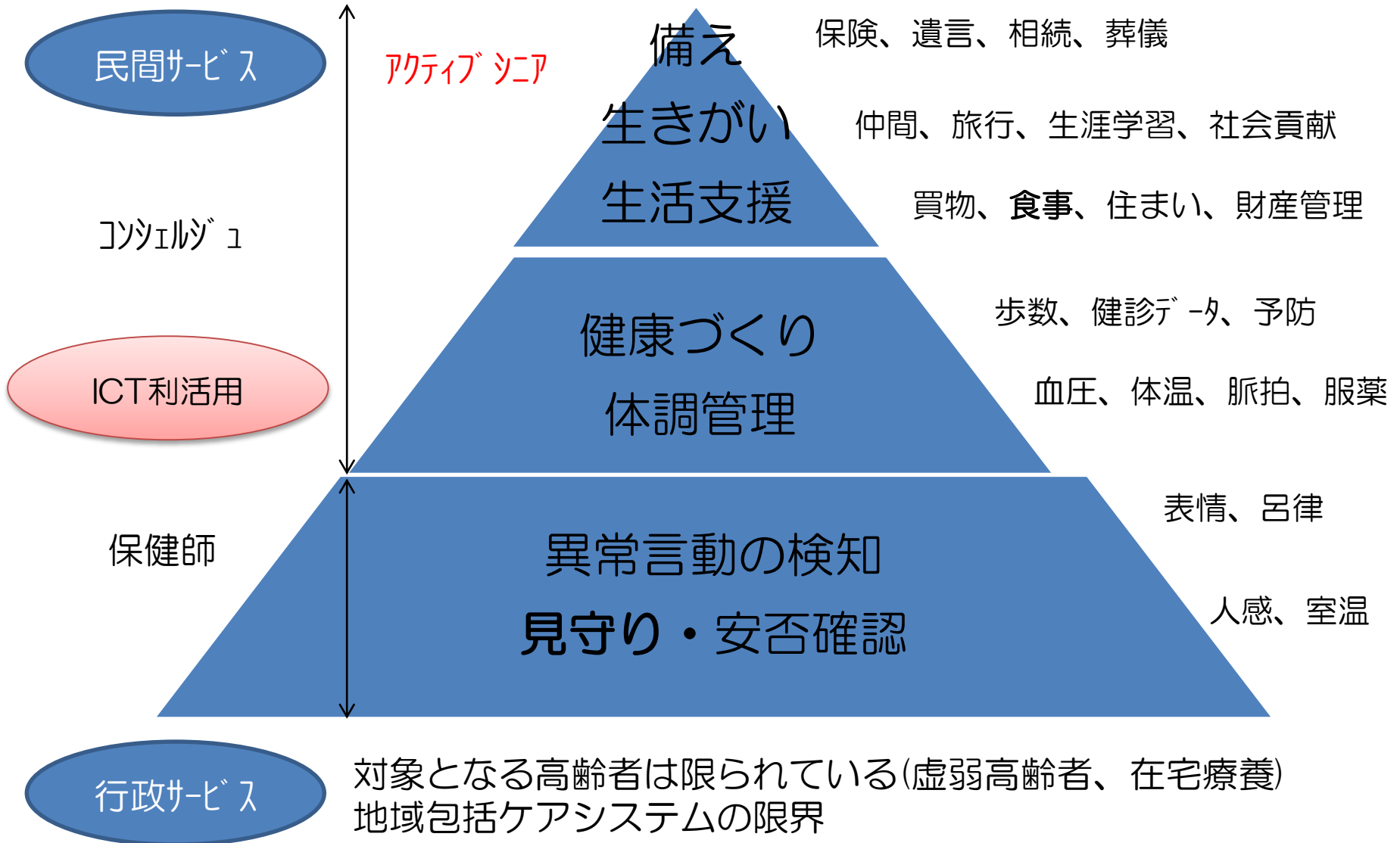
健診機関を受診している元気高齢者を組織化し、健康づくりとゆるやかな社会参加を促すためのプログラムとしてヘルスツーリズムの実証を行う。

また、都市部元気高齢者の生きがいづくり、生活支援に係る潜在的ニーズを掘り起し、保険外サービス事業者へのマッチングを行う。

#### 【実施方法】

- ・健診施設の健診受診者を対象にモニター会員(50名)を募集・登録
- ・事業担当者としてコンシェルジュを配置
- ・モニター会員のニーズ発掘・収集を目的としてセミナーを開催  
(テーマ:医療・介護、高齢者住宅、遺産相続、農業など)
- ・ニーズに応じて保険外サービス事業者とのマッチング、コーディネート
- ・健康、生きがいづくりメニューとしてヘルスケアツーリズムを開発
- ・ヘルスケアツーリズムの事業効果(心理的効果)の測定
- ・健康、生きがい、社会参加に関する意識変容の測定
- ・会員システム、健康ポイント制度の設計(ビジネスモデルとして設計)

# 高齢者健康・生活支援ニーズの階層



## 事業実施による成果

- ・複数自治体・民間連携による健康づくりプログラム、ヘルスツーリズムプログラムを開発。
- ・実証事業参加者の健康改善・行動変容（指標による「見える化」）の提示  
身体データ、血液データ、健康障害リスク、健康意識の変化  
健康、いきがい、社会参加に関する意識変容
- ・広域連携健康支援拠点の導入による保健事業等に係る自治体財政負担の減少  
各町村の保健事業、介護予防事業等の予算、実証結果との比較により  
コストベネフィットを検証
- ・新サービス（ヘルスヘアコンシェルジュ事業）の創出  
北海道ヘルスケア産業振興協議会の会員を対象としてサービス提供事業者の  
ネットワークを構築